

ノボル鋼鉄

明星精工買収し新会社

「ノボルエンジニアリング」精密加工に強み

特殊鋼流通のノボル鋼鉄（本社＝東京都千代田区、三上聡彦社長）は、昨年11月に設立した100%子会社のノボルエンジニアリング（社長＝三上晃史ノボル鋼鉄常務取締役）を通じて、埼玉県で精密部品加工などを手掛ける明星精工を買収し、昨年12月1日から本格的に操業を開始した。産業機器、医療機器部品向けの小型精密加工を得意とし、相応の技術力を有することから、ノボル鋼鉄にとって取引先および特殊鋼販売の拡大につながると判断した。

昨年12月に本格操業

ノボルエンジニアリングは、資本金1000万円、役員を除く従業員は30人。設備はマシンニングセンター24台、旋盤28台、ラジアルホール盤30台など。売上高は約4億円の見込み。

本社工場が埼玉県さいたま市西区にあり、主に素材の仕上げ工場

三上晃史・エンジニアリング社長

と位置付ける。同市桜区に材料の前加工を行

う浦和工場もある。明星精工の創業者である黒田洋一社長は、ノボルエンジニアリングの技術顧問に就いた。

ノボル鋼鉄の三上社長は今回の買収について「ノボル精密、テクニカルセンターと情報共有しながら、ノボルエンジニアリングの人材育成を含め、シナジーを追求する。幸いスタートから利益確保できており、将来的に間口を広げていきたい」と話した。

ノボル鋼鉄にとって

明星精工の加工技術力が、同社の営業力、調達力とシナジー効果を発揮できるものと判断し、最終的に明星精工から事業譲受すること。昨年9月末に合意。11月28日に相当分の金額の支払いを完了し、12月1日からノボルエンジニアリングとして事業を再開した。

主な事業内容は、医

療機器部品、産業機器に使われる金属部品加工から熱処理、めっき処理、塗装処理まで対応する。対応材料は鋼材（SC、SCM）ステンレス、アルミ、アルミ合金ダイカスト、銅など。加工寸法範囲は丸物素材では長さ250mm前後、角物素材では最大値・可動範囲が1000×610×460mm。

主な取引先は安川電機、アトムメカニカル、三木ベルテック、大東製作所、ワイ・イー・データ、林化工機製作所、古原鉄道工業、福岡化成工業、藤井精密回転機製作所、Eレド、島野精機など。